

「佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計（案）」に対する パブリックコメントの実施結果について

「佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画（案）」について実施したパブリックコメントの結果について、次のとおり報告いたします。

貴重なご意見をお寄せいただき有難うございました。

1. 意見募集の結果概要

施 策 名	佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計（案）
意見の募集期間	平成30年2月16日～平成30年3月15日
意見の件数	提出者数： 5 名 意見件数： 12 件
意見への対応等	意見を参考に案を修正したもの： 0 件

2. 意見の内容及び意見に対する市の考え方

No.	意見の内容(要旨)	意見に対する考え方	修正有無
1	<p>〔【概要版】9 ページ Ⅷ—2—(6)災害用便所)】 【意見】 災害時には、「外構に公共下水道接続型貯留式マンホールトイレを設置」とあるが、「複合公共施設内の一部に、要援護者(障害者、高齢者等)が、平常時や災害時に利用できるトイレ用雨水(雑用水)タンクを設置して、雨水を利用するトイレを設置する。」としてはどうか。</p>	<p>トイレに雨水を利用することについては、基本設計の中で検討を実施しましたが、雨水だけではトイレの使用水量を賄えないことから、上水道給水管と二重に敷設する必要があり、導入コストとタンク等の衛生・維持管理などのコスト増のほか、漏水リスクの増加等を総合的に判断し、導入を見送ることとしました。</p> <p>なお、断水時には、敷地内に設置した井戸をマンホールトイレの洗浄水等に利用(A-12 2-7 防災計画参照)することとしています。</p>	無
2	<p>(02 ページ 1-2 設計コンセプト) 【意見】 複合施設ということで、観光情報発信機能も整備され、地域住民と観光客が利用できる施設となります。 子育てや文化活動等の明白な目的を持った地域住民とは別に観光で訪れる人々は、「伊能忠敬・山車祭り・古い町並み」といった漠然としたイメージを持って訪れます。</p>	<p>設計コンセプトでは、市内外からの来館者による賑わいの創出を大きな目的にしていることから、ご指摘の通り、訪れやすい雰囲気や地域住民・観光客に対し親しみと温かみのあるデザインが必要となります。</p> <p>外観デザインについては、市民ワークショップや基本設計検討委員会などでの様々な意見と検討を経て、今回のデザイ</p>	無

	<p>佐原町並み交流館でも見られますが、入ってよいか迷っている方を見かけます。掲示物による誘導も必要ですが、観光客には遠目からもみられる「Welcome」を醸し出すデザインが必要です。</p> <p>人を集め賑わいの創出を目的とするなら、地域住民にも観光客にも親しみと温かみのあるデザインが必要です。</p>	<p>ンを採用していることから、親しみやすさ等も取り入れられていると考えます。</p> <p>なお、今後、実施設計等の段階で外観デザインが確定することから、必要に応じて改善を図ります。</p>	
3	<p>(A-08 ページ 2-4(2) 立面コンセプト)</p> <p>【意見】</p> <p>外観デザインに「格子」と「庇」を取り入れたのは古い町並みを意識されてよいと思います。「格子窓」は木材で細い部材が使用されており、いろいろな意匠と技工を感じさせ、人の目を惹きつけますが、素材を金属にすると「鉄格子」は頑丈・堅牢さを見せるデザインで人を撥ねつけるイメージとなります。</p> <p>市の消防署の建物も縦格子が使われているが、「親しみのある暖かな感じがする」という人はいません。</p> <p>目的や設計コンセプトにより素材と部材の使い方を選定しないと別の意味になります。</p> <p>また「庇」については、歴史と文化を誇る市の象徴として歴史を感じさせる本物の素材を使うべきです。古い町並みの導入路として町並みに使われている素材の使用は不可欠です。木製の支柱と足元の置石、頭上の樋と瓦屋根が町並みをイメージするよう製作することで、格子とともに親しみがあり温かみのあるデザインとなります。</p>	<p>素材や部材の詳細については、今後、実施設計の段階で、デザイン・コスト・メンテナンス性を総合的に判断し決定する予定です。</p> <p>町並みの家屋とは異なるスケール感や公共施設としての制約などなどから、金属製の素材を採用する場合にも、「親しみがあり温かみのあるデザイン」を意識した質感や仕上げなどに留意し、周辺環境に十分配慮して施工したいと考えます。</p>	無

4	<p>(A-08 ページ 2-4(2)立面コンセプト、C-01 ページ 6.工事概算費)</p> <p>【意見】 格子については、町屋のような意匠で、面積や部材サイズは、同等から 2 倍程度までとし、使用面積も階層部分前面に使用しないで階層部の中央部分 2 分の 1 程度とか、市松模様を組み込んだデザインにより工事費も安価にできると思います。</p> <p>木製にすることによりメンテナンスの問題もありますが、足場を組まなくても内側から交換できるよう設計することは可能ではないでしょうか。</p> <p>庇の素材がガルバリウム鋼板とありますが、瓦棒・一文字葺きなど施工によっては瓦より高価になり、落下物や現場加工の状況により耐用年数が大幅に下がります。瓦は、部分交換できます。木材の支柱や束石の費用の加算や樋(銅製)の費用増加もありますが、東側出入り口の中の庭の回廊屋根にも瓦を使用してほしいと考えます。</p> <p>費用が大幅に高くなることはなく、基本コンセプトを表現するうえでも、本物志向で製作することで、親しみや温もり生まれると考えます。</p>	<p>「格子」のサイズ・使用面積及び「格子」「庇」の素材については、No.3に同じ。</p> <p>格子の設置部分には、メンテナンス用のデッキを設置しているため、木製以外の素材であっても内側から取り替えることは可能です。</p> <p>庇の素材については、イニシャルコスト及び耐震性を踏まえた検討を行いました。一般的に金属屋根に比べ、瓦屋根の方が初期費用が高いこと、瓦は金属屋根の3倍程度の荷重があり、構造架構コストの増大にも繋がることなどから、基本設計段階では、庇の素材にガルバリウム鋼板を選定しています。今後、実施設計の段階で、再度、デザイン・コスト・メンテナンス性を総合的に判断し決定する予定です。</p>	無
5	<p>(A-03 ページ 2-2③子育て支援施設)</p> <p>【意見】市内に数か所、子育て支援と称するものがありますが、他市等に比べると数も少なく、内容も貧弱です。例えば、印西市などは人口(特に子育て世代)が多く、子育て環境が充実している。香取市がその点が弱いのは仕方がないが、ぜひ、今回の複合公共施設内に子供たち(0歳~3歳くらいの子をメイン)が雨でも室内で楽しく安全に過ごせる施設を作ってあげて欲しい。市内の公園も少なく、小さい子供にとって安全に遊べるものは少ない。自分の孫たちも帰ってきても遊べるところが少なく困っています。</p>	<p>今回の基本設計における「子育て世代支援施設」では、施設内に屋内多目的広場や遊戯室を設けています。</p> <p>今後、整備事業の推進にあたっては、環境の充実とともに、小さな子どもも安全に遊ぶことができる施設とするため、施設の管理・運営方法のほか、導入する遊具等の検討を実施する予定です。</p>	無
6	<p>(A-13 ページ 2-8 ユニバーサルデザイン・バリアフリー計画、M-01 ページ 5-1 機械設備基本方針)</p> <p>【意見】トイレに関し、以下の配慮が必要と考えます。</p> <p>①トイレについては、多人数が使用するため感染症予防など衛生面への配慮。</p> <p>②高齢者にもわかりやすい、表示や使用方法への配慮</p> <p>③維持管理費を抑制する配慮</p> <p>④衛生面から女性用トイレの個室に手洗いの設置</p> <p>⑤トイレ内の温風乾燥機(ハンドドライヤー)は、乾燥に時間を要することや音の問題があるため、電気が無駄にならず、多人数に</p>	<p>①抗菌仕様の仕上げ材料の選定等、可能な限り衛生面に配慮した計画とします。</p> <p>②適切な大きさや分かりやすい色彩、またピクトグラムを採用するなど、誰もが利用しやすいサイン計画に配慮し、計画します。詳細は今後の実施設計にて検討します。</p> <p>③節水型の器具を採用するなど、維持管理費の抑制に配慮した計画とします。</p> <p>④面積効率に配慮したトイレ計画としているため、現状計画ではトイレの個室に手洗いを設けるスペースを確保することが困難な状況です。衛生面に関しては、抗菌仕様の仕上げ材料の選定等、</p>	無

	<p>対応できるペーパータオルと電動又は大型ごみ箱の設置</p> <p>⑥個室のドアは、個室内で倒れて救護する場合や高齢者の利用を考えると外開きが良い。また、ドアは目立つ配色が良い。</p> <p>⑦感染症予防や多人数対応のため、和式トイレの設置。</p> <p>⑧トイレのカギは棒状では、頻度の高い利用でも故障しにくい形状のものを設置</p> <p>⑨公共トイレの手洗いに鏡は不要。鏡をつけるなら手洗いと別にして、荷物置台も同時に設置すべき</p> <p>⑩荷物を置きたい場合に、ドアフックは背の小さい人には不便。床に置くのも清掃や衛生的に問題があるので、壁面に棚を設置して欲しい。</p> <p>⑪自動水洗が多くなってきたが、必要もないのに何回も動作してしまうので無駄である。</p> <p>⑫操作パネルがわかりづらいので高齢者にもわかりやすく、高さなども考慮したパネル・洗淨ボタンの設置</p> <p>⑬会場の収容人数とトイレの数をよく検証し、必要なトイレ数を確保する</p> <p>⑭体の反転が90°で済むように、個室内の便器は横向きにしてほしい。</p>	<p>可能な限り配慮した計画とします。</p> <p>⑤現状計画ではハンドドライヤーの計画はありません。また、ペーパータオル等の設置については、市施設では設置していないため、現状計画していない状況です。</p> <p>⑥トイレブースのドアには、非常時に外側から開けられる仕様を採用することで、対応可能です。色については、今後の実施設計にて検討します。</p> <p>⑦1階のトイレに1台設置予定です。</p> <p>⑧耐久性が向上した一般的な形状のものを設置します。</p> <p>⑨一般的な公共建築として手洗いに鏡は必要と考えます。また、面積効率に配慮したトイレ計画としているため、トイレと別にパウダーコーナーを設けるスペースの余裕もない状況です。</p> <p>⑩便器の背面には腰壁(ライニング)を設け、荷物が置ける仕様としています。</p> <p>⑪衛生面に配慮し、自動水洗を採用しています。</p> <p>⑫操作パネル・洗淨ボタンの仕様や取り付け高さについては、今後の実施設計で検討します。</p> <p>⑬多目的ホールや公民館諸室等の収容人員から、適切なトイレの器具数を算出し、計画しています。</p> <p>⑭面積効率に配慮したトイレ計画としているため、全ての便器にて対応することは困難かと思われます。今後の実施設計で再検討し、可能な限り対応します。</p>	
7	<p>(02 ページ 1-2 設計コンセプト)</p> <p>【意見】「集客の拠点」とあるが、複合公共施設は基本的に地域住民向けの利用を意図されており、地域住民が集まっている場所に観光客が入りたいと思うでしょうか。</p> <p>また、子育て支援施設と公民館の間をアウェイの人間が通るのは敷居が高く、いかにも地域住民の憩いの場には入りづらいと感じます。</p>	<p>本設計では、佐原駅周辺という好立地を活かし、地域住民向け生活機能と来街者向け観光情報発信機能を複合化した施設として整備することで、市内外から人を集め、新たな交流を創出することが目的の一つとなっています。</p> <p>人口減少と市街地の縮小化が進む中で、地域住民人、観光客どちらか一方で賑わいを創出することは困難であり、中心市街地の活性化を図るため、互いの交流を創出することが施設運営のテーマの一つと考えます。外国人観光客も含め、観光客の旅行の楽しみ方も多様化しており、メディアスペースや(仮称)佐原通りを利用した映像資料の提供や郷土芸能等の市民活動の披露、ボランティアガイドの設置など、地域住民との触れ合う場の提供も施設の機能と考えます。</p>	無

8	<p>(A-05 ページ 2-2 平面計画⑤公民館機能) 【意見】公民館機能を重視するなら、佐原にあるからと言って地元外の人を集客に結び付ける必要ないと思います。もし、集客に結び付けるのであれば、佐原駅南口から清見屋跡地までを観光客がわざわざ歩いてみたくなるような魅力的な商店街にしなければ、最初から小野川沿いや古い町並みに直行してしまうでしょう。佐原駅南口からの商店街をどう魅力的に変えていくかを並行して、既存の商店街を行きたくなる場所に変えていかなければなりません。あたらしいもの、よそ者、若者をいかに受け入れるかにかかってきます。</p>	<p>今回の複合施設において、一つの機能を重視した施設配置は行っていません。人の交流の創出や効率的な施設配置など複合化によるメリットに重点をおいています。</p> <p>駅南口からの動線については、ご指摘の通りだと考えます。今後は、様々な方の意見を取り入れつつ、地域等と二人三脚で施設周辺の活性化に取り組みたいと考えます。</p>	無
9	<p>(A-03 ページ 2-2 平面計画③子育て世代支援施設) 【意見】子育て支援は、国を挙げて推進しており市民要望も高いが、支援方法や子供たちをどのように保育していくかは、様々な手法や新しい考え方が表れています。</p> <p>今、様々な社会的な要因で(いわば大人都合で)、子ども達は箱に囲われて育っている現状です。子育て支援施設に囲ってしまうのは、大人にとってとても楽なことです。しかし、施設で過ごすということは、従来子どもが地域でできた体験が少なくなること、施設内だけの人間関係で過ごしていることとなります。</p> <p>まち全体を保育の場としてとらえ、まちの様々な資源を活用していくことで、地域の交流を深めて『まちが子どもを育てる』という意識を高め、その土壌を培っていくことがまちの担い手育成に繋がっていくと思われまます。</p> <p>これまでの子育て支援には、ただ子供や親が気兼ねなく遊べる施設を作るのではなく、まちの中で近隣の商店街や住民と連携しながら子ども達をどう育てていくか、その場所と地域の関りを強化していくかの観点が欠けているように感じます。まちの中に子どもの立ち寄りスポットができないか？まちの中の、今ある公園や空地を子ども達に提供できないか？子育て支援施設におもちゃを置いて、それで遊ばせることは簡単ですが、まちの中には子ども達が喜ぶ発見がたくさんあるはずでます。子育て支援と都市計画、まちづくりを複合的に考えていくという部分が、この計画を読んでも見えてきません。</p>	<p>本施設における子育て世代支援施設は、子育て世帯などに、雨天時などに安全に遊ぶことができる「場」の提供と考えています。</p> <p>子どもの「保育」や活動を「囲い込む」のを目的とするのではなく、様々なニーズを抱える子育て世帯が活動する選択肢の一つとなればと考えます。</p> <p>これまで、佐原地域になかった選択肢を提供するとともに、多世代交流や「地域が子どもを育てる」場としての機能も重要と考えます。基本設計は、子どもや親にとって新たな交流や体験の手助けになる「場」を施設の形として取りまとめたものです。今後、策定する管理運営方針等により、具体的な施設活用方法を定めまます。</p> <p>なお、「地域で子どもを育てる」考え方については、本施設の基本設計では掲載されておりませんが、市の最上位計画であり平成 30 年度にスタートする「第 2 次香取市総合計画」では、子育て世帯を地域全体で支え合い、安心して子どもを産み育てられる環境整備を重点プロジェクトとして位置付け、取り組むこととしています。</p>	無

10	<p>(A-04 ページ 2-2 平面計画④図書館)</p> <p>【意見】香取市において図書館はどうあるべきか？これからどういう役割を果たしていくか、市民は図書館に何を求めているか？明確なビジョンが必要です。「気分や目的によって選べる」ではそのビジョンが見えません。</p> <p>本は娯楽のためだけにあるものではありません。人間を育むものです。例えば昭和 35 年、鹿児島県では県、市町村の図書館、学校や PTA が連携して、『母と子の 20 分間読書運動』を展開し、親子の読書運動の先駆けとなりました。当時鹿児島県立図書館長であった椋鳩十氏が提唱し、その信念と情熱、明確なビジョンがこの運動を拓けてきました。</p> <p>図書館はただ本があるだけの場所ではありません。香取市内で図書館と呼べる規模の図書館は辛うじて佐原にあるのみです。書籍は年間 75000 点出版されており、児童書が 4300 点、絵本が 1700 点ほどです。その中身は玉石混淆であるとは思いますが、良書を知的財産として増やしていくのが図書館です。現在の設計は、今ある図書館に比べてどれほど蔵書を増やすことができるのでしょうか？閉架書庫の 50000 冊のうち、何冊が郷土資料で何冊がその他の一般書架ですか？閉架図書は何年でいっぱいになってしまうのでしょうか。</p> <p>繰り返しますが、本は人間を育むものです。特に若い人たち、子ども達にとっては親子の絆を深め、その心を動かす大切なものだという理解が必要です。</p> <p>そうである以上、子ども達に関わる人たち、教育機関、図書館関係者、そして本をきちんと知る専門家的知識を持つ人などと丁寧に議論し、設計段階から連携していくべきだと思います。</p>	<p>本市では、社会情勢が変化中、多様化する市民のニーズに対応するため、平成 29 年 3 月にパブリックコメントを実施し、4 月に、「香取市図書館基本計画」が策定され、この計画の中で、基本理念と目標について定められております。</p> <p>また、現在、佐原中央図書館の蔵書数は約 9 万 5 千冊ですが、複合施設へ移転後は約 14 万冊を収納できる設計になっております。</p> <p>出版される全ての本を収集することは不可能ですので、限られた予算の範囲内で内容を精査、吟味し、購入する本については時流や市民の皆様の意見を反映しつつ、偏向を避ける蔵書構成を心掛け、所蔵していない本についても県立図書館の運営する相互貸借により他の図書館から借り受けることで補っております。</p> <p>郷土資料は入手困難な貴重な資料も多くあるので、今後も一般書架に配架する予定はありません。複合施設移転後はカウンターから目の届くガラス張りの郷土資料室に配架する予定です。郷土資料は出版数も少なく、今後すぐに書架が資料でいっぱいになる心配はないと考えられます。</p> <p>平成 27 年度より図書館職員の他、関係職員による先進図書館への視察、社会教育委員による審議、視察を行い、昨年には公募による「佐原中央図書館の移転に関わる意見交換会」を設置して近隣の先進図書館に視察に赴くほか、検討委員会において専門知識を持った設計士等の意見も参考にしております。</p> <p>今後も利用者が使いやすい図書館を目指して計画を推進して参りたいと考えております。</p>	無
11	<p>(C-01 ページ 6. 工事概算費)</p> <p>解体工事費を除いて、40 億円を超えていますが、この財源は何ですか？それによって債務が発生するとしたら、いくら債務となりますか？債務の返済の財源は何を見込んでいますか。</p> <p>年間維持管理費の概算は？</p>	<p>建設工事費等の財源については、主に国の補助金である社会資本整備総合交付金(補助率40%)及び市の借金である合併特例債を見込んでいます。</p> <p>建設工事費及び外構整備工事費を合わせた 42 億 1,900 万円が概算事業費とすると、補助金のほか、合併特例債は交付税措置されるので、実質的な負担額としては約 9 億円(※)が見込まれます。</p> <p>債務返済の財源については、合併特例債に係る交付税措置分を除く財源は、一般財源からの支出を想定しています。</p> <p>また、年間維持管理費については、市内類似施設からの推計では、年間約 6,500 万円(職員人件費を除く)を見込んで</p>	無

		<p>でいます。 (※今後の施設面積全体を補助対象とした想定です。今後、国等との協議により施設内容を精査することで債務額等の変更が見込まれます。)</p>	
12	<p>(02 ページ 1-2設計コンセプト) 【意見】①コンセプトにあるような施設となり得るか、例えば複合施設が地域の多世代交流の拠点となり得るか。まずそこが正直疑問です。 なぜなら、子育て支援施設に高齢者や高校生がわざわざ足を踏み入れることはないからです。公民館スペース等で祭りの練習をしていたとしても、祭りに関係ない人間はただそれを通りすがりに眺めるだけです。</p> <p>②静かさを要する図書館を備えているため、1階でイベントを催すにも制約が出てきます。</p> <p>③回遊性も疑わしいです。何故ならわざわざ回遊するためには、回遊するに足る面白さがなければなりません、現状南口商店街にはそれが不足しています。</p> <p>④子育て支援も、ただ場所を提供するだけでは問題が解決しない時代になっています。商店街や、まちの住人、行政、様々な機関と連携し、まち全体で子どもを育てるなら、必ずしも子どもを囲わなくてもいいのです。まち全体で子ども達を見守れるように皆が考え、場所を提供し合い、子ども達が安心して遊べる空地があったりする方が地域の交流が図れます。</p> <p>⑤図書館機能の充実は人を育てる、知的財産の共有、娯楽という観点から必要でありかつ公民館スペースは必要と思われるので、この2つに絞ってしまっても良いのではないかとさえ思えます。</p>	<p>①多世代交流につきましては、今後、複合施設のメリットを生かし、施設内での各機能の連携事業や交流を促すイベントなどについても、管理運営方針等の策定作業の中で検討します。 また、本施設については、諸室とテラス、諸室と廊下といった室内だけにとどまらない共用部の使い方を工夫しており、「わざわざ踏み入れる」のではなく、「自然に触れ合う」などの活動を推進したいと考えます。</p> <p>②図書館への音の影響については、吹き抜けに防音のためのガラス壁を設けており、1階からの音を極力遮断するよう配慮しています。</p> <p>③回遊性の向上については、No.8の考え方に同じ</p> <p>④「まち全体で子どもを育てる」ことについては、No.9の考え方に同じ。</p> <p>⑤図書館機能と公民館スペースに施設を絞ることにつきましては、平成29年1月に策定した「佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画」や本基本設計策定過程で、複合公共施設への子育て世代支援施設を求める意見により盛り込まれており、これまで基本計画に対するパブリックコメントや広報、ホームページで周知を図ってきておりますことから、現状、施設機能の変更については予定していません。</p>	無

3. 問い合わせ先

企画政策課

TEL 0478-50-1206 / FAX 0478-52-4566